

曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員
瀬戸口 淳氏

俳句

末吉俳句会

滴りの一玉ごとの流れかな

児玉 典子

小流れに膨らむ風の涼しさよ

古藤 まゆみ

億年の流れの澄みて目高棲む

宮路 生大子

大陽俳句会

山里の隠れ念仏実りの田

福村 よう子

花道を歩むが如くばった飛び

岩重 みどり

病む友に言葉少なく秋の風

鍋山 美智子

短歌

末吉短歌会

仏門の始祖なる仏陀口閉ざす「死ねばどうなる」謎解きは「無記」

大森 巳喜生

毛羽立てる狗尾草の穂に結ぶ

たまゆらの露秋は来にけむ

泊 康

娘に添ひし十九年の猫の逝く
娘の生き越しの糧となりたる

平田 美穂子

大陽短歌会

彼岸花咲き初めし今日空あおく

花嫁姿の孫はチャペルに

川辺 敦子

秋の夜長昭和の歌が流れる

「恋人よ」聞き胸きゅんとなる

北村 弘子

衛星放送始まりにけり

銃弾にのけぞり倒れしケネディ映し

西山 美代子

曾於やごろう短歌会

パンよりもごはんがいと母いいて

百四までもたべつづけたり

橋口 幸子

黒髪を束ねてほどき鏡見て

ながき日暮らした遠き島の日

戸高 幸子

財部短歌会

氷菓子とけぬうちにと思へども

暮れ色かかり崩れ落ちたり

井上 澄子

年取らずいつも近くにいたる友は
歳重ねゆく我を励ます

坂元 淳子

満月に亡父を偲びて五十年
九月の夜風秋を宿して

脇丸 洋子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

老骨体 突然の油断
骨接つ

浜田 一好

収穫見 米安価すなれち
願ごちや見つ

桐野 奈世

卓球で 玉は空振り
手は扇子

西留 辰子

収穫後の 藁を小屋上
牛ん餌

山中 ミツどん

旅民い 犬猫舞付つ
踏んかかっ

胡摩ケ野 べぶまつ

暗れ縁側で 十五夜雲に
団子飾つ

高瀬 夜舟